

第2章「保護者調査」の結果

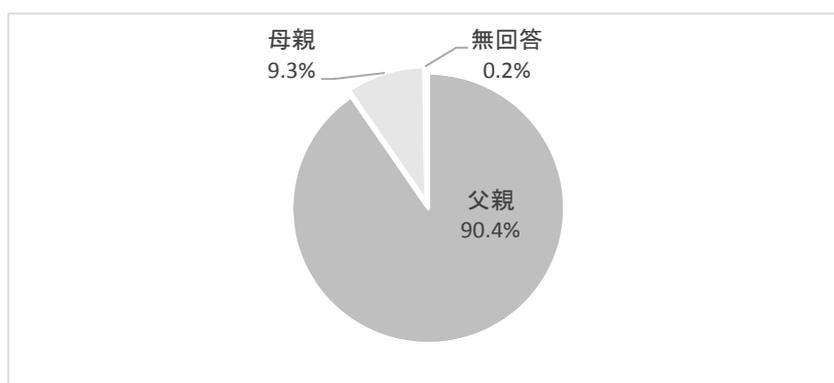
第2章では、新入生の保護者421名に対する調査結果について報告する。

(1) 家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者の年収、④世帯年収、⑤大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

① 主な家計支持者

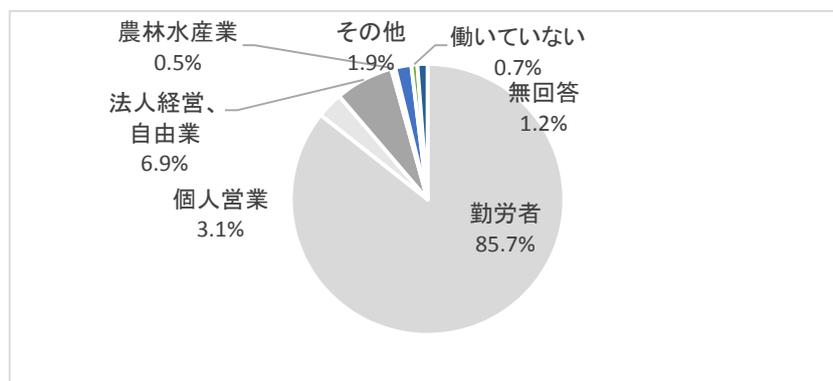
図表 1-1 は、新入生の主な家計支持者についての結果である。主な家計支持者は、全体の90.4%が「父親」、9.3%が「母親」である。平成26年度新入生の保護者も同様の傾向であった（お茶の水女子大学2014,p35）。



図表 1-1 家計支持者

② 家計支持者の職業

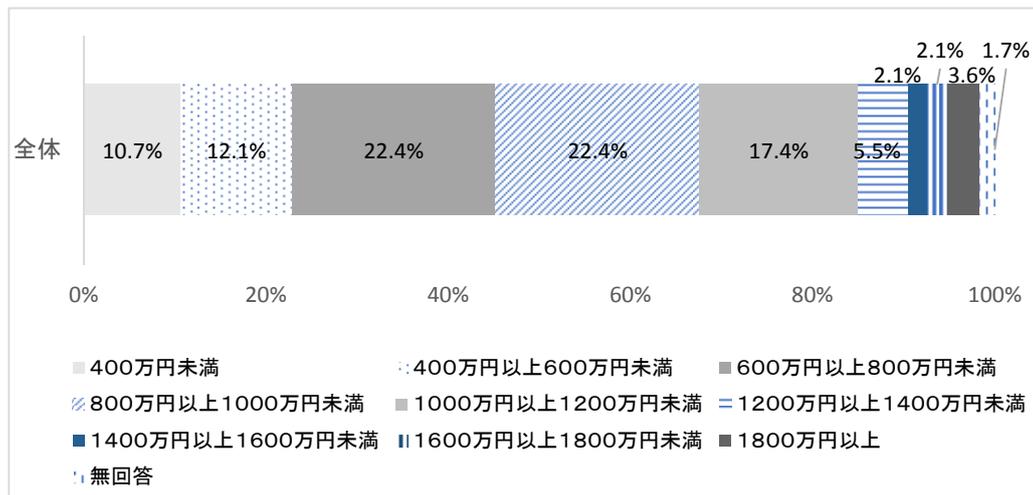
図表 1-2 に、家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の85.7%を占め、次いで「法人経営・自由業」6.9%である。平成26年度新入生の保護者も、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学2014,p35）。



図表 1-2 家計支持者の職業

③ 家計支持者の年収

図表 1-3 に新入生の家計支持者の年収について示す。全体では、「600 万円以上 800 万円未満」「800 万円以上 1000 万円未満」がともに 22.4%と最も多く、「1000 万円以上 1200 万円未満」17.4%がそれに続いている。平成 26 年度新入生の保護者も、ほぼ同様の傾向であった（お茶の水女子大学 2014,p36）。

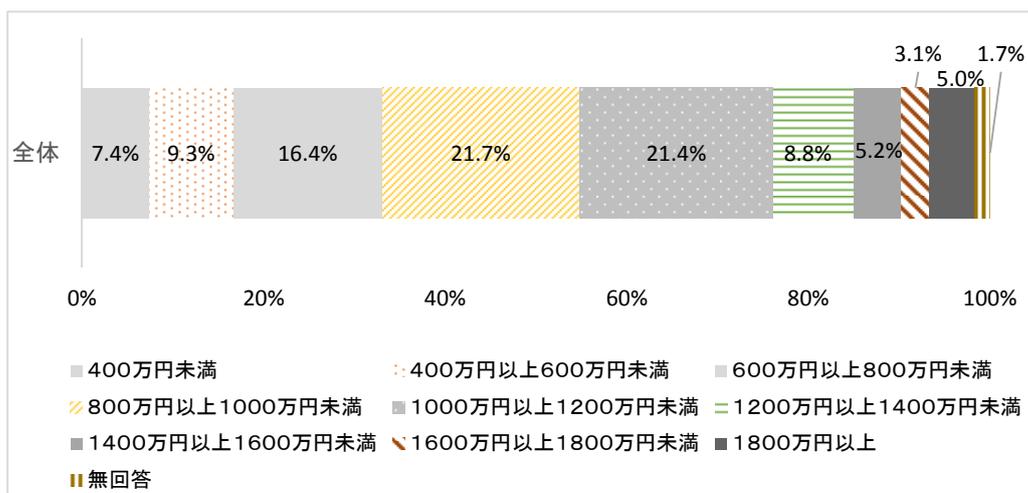


図表 1-3 家計支持者の年収

④ 世帯年収

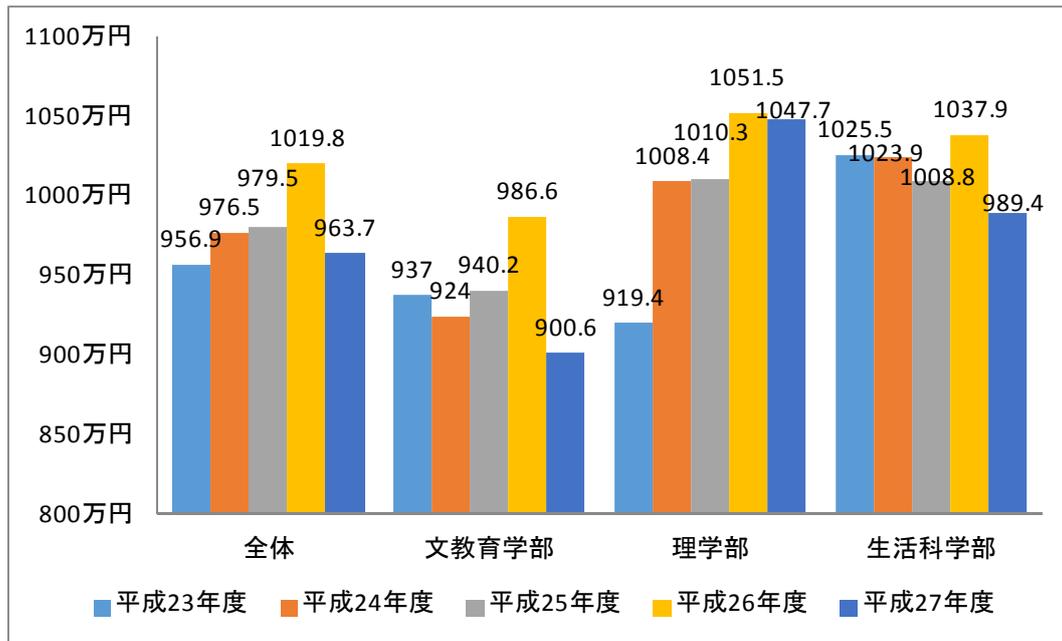
さらに、新入生の家庭の世帯年収について、家計支持者同様に尋ねた結果が図表 1-4 である。全体で見ると、「800 万円以上 1000 万円未満」が 21.7%と最も高く、「1000 万円以上 1200 万円未満」21.4%、「600 万円以上 800 万円未満」16.4%がそれに続いている。

平成 26 年度の新入生の保護者では「1000 万円以上 1200 万円未満」が 21.4%と最も高く、「800 万円以上 1000 万円未満」18.3% であり今年度とは上位が入れ替わっている。「600 万円以上 800 万円未満」16.9%がそれに続いている（お茶の水女子大学 2014,p37）。



図表 1-4 世帯年収

『平成 24 年度学生生活調査』（日本学生支援機構 2014）によると、家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）について、1000 万円をこえる家庭は全体の 23.9%、国立大学・女子では 25.2% である。それに対し図表 1-5 に示すように、本学新入生の家庭のうち、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭は少なくとも全体の 43.5% を占めており、家庭の世帯年収が全国水準に比べて、高い方に偏っている。平成 26 年度新入生でも同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2014,P37）。参考に、図表 1-5 に、各カテゴリーの中央値に基づき、平成 23 年度以降の新入生の家庭の世帯年収平均（推計）を算出したものを示す。平成 26 年度新入生の平均世帯収入が他の年度より高いものの、おおむね同程度の平均値で推移している。

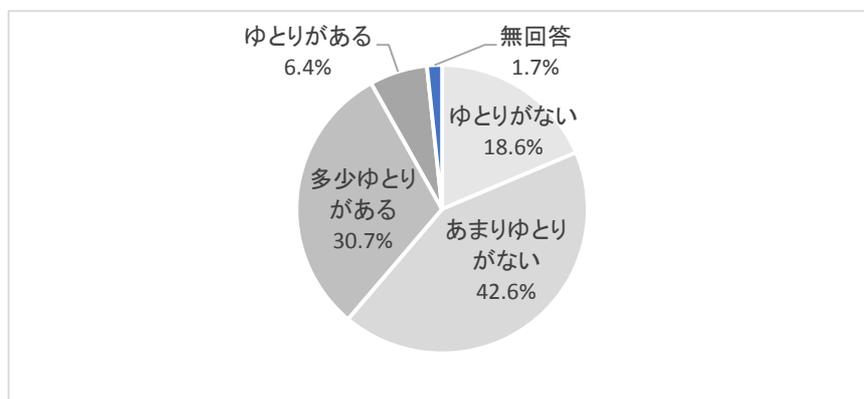


図表 1-5 世帯年収平均（推計）

⑤ 大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-6 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体で見ると、「あまりゆとりがない」が 42.6% と最も高く、「ゆとりがない」18.6% と合わせると全体のおよそ 6 割に及んでいる。これらの傾向は、平成 26 年度新入生の保護者でも同様である（お茶の水女子大学 2014,p34）。



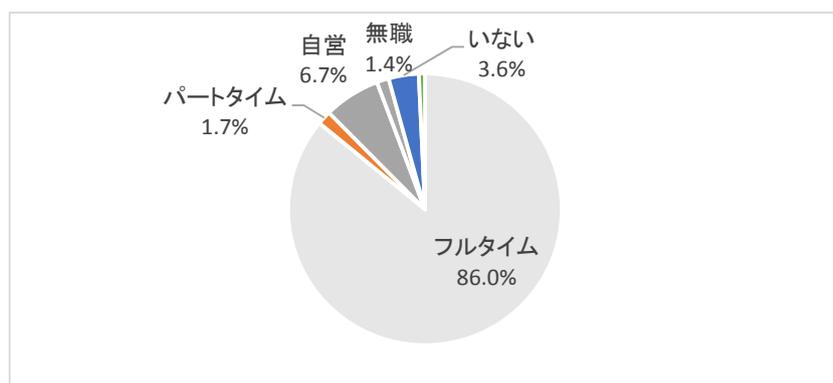
図表 1-6 入学した後の家庭の暮らし向き

(2) 親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態、②親の学歴について示す。

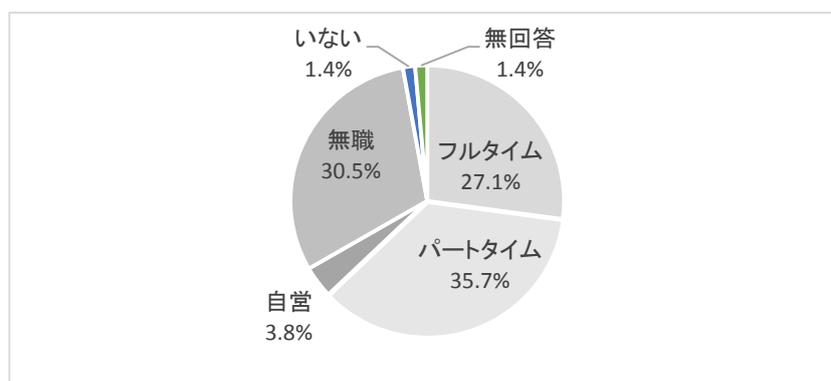
① 親の勤務形態

図表 2-1 は、新入生の父親の勤務形態について、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無業」「いない」別に尋ねた結果である。新入生の父親の勤務形態は、86.0%が「フルタイム勤務」であり、平成 26 年度も同様の傾向であった（お茶の水女子大学 2014,p39 参照）。



図表 2-1 父親の勤務形態

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-2 である。「パートタイム勤務」が全体の 35.7%で最も高く、「無職」30.5%、「フルタイム勤務」27.1%が続いており、平成 26 年度新入生とほぼ同じ傾向である（お茶の水女子大学 2014,p40）。今年度新入生では、「パートタイム勤務」の母親が昨年の 32.6%と比べて 3 ポイント程度少ない。

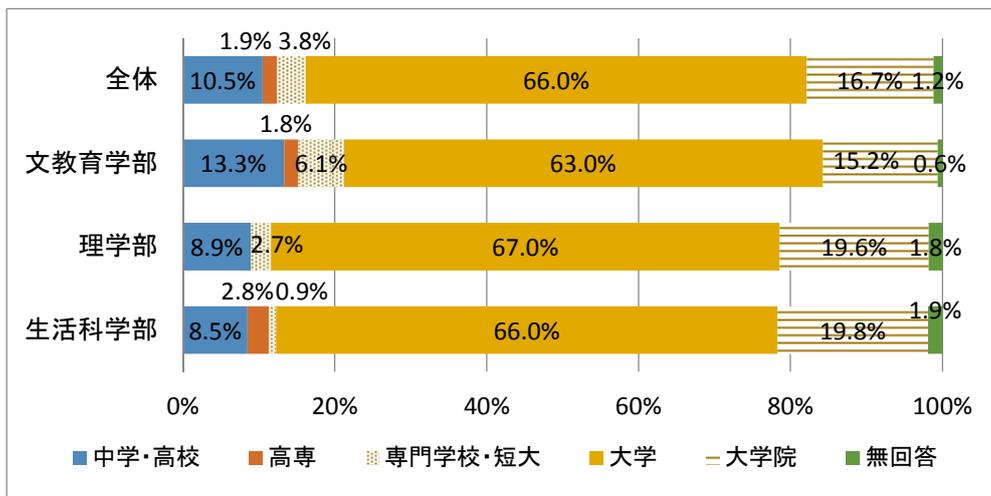


図表 2-2 母親の勤務形態

② 親の学歴

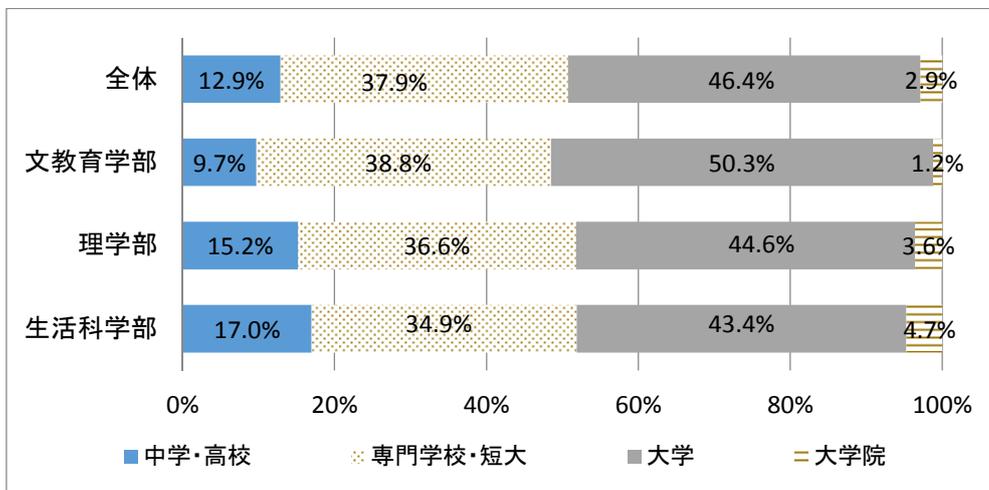
図表 2-3 は、新入生の父親の最終学歴について尋ね、「大学院」「大学」「専門学校・短大」「高等専門学校」「中学・高校」別に示した結果である。新入生の父親の最終学歴は、全体でみると、「大学」が 66.0%と最も高く、それに「大学院」16.7%、「中学・高校」10.5%が続いている。平成 26 年度新入生の父親も、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2014,p41）。

学部別では平成 26 年度においては理学部が他の学部にくらべて「中学・高校」「大学院」が高く、「大学」は低いという特徴であった。平成 27 年度では、「大学」「大学院」を合わせた割合が、理学部では 86.6%であり、父親の学歴が高い傾向が見られる。『平成 22 年度国勢調査』（総務省統計局 2011）によると、最終学歴が大学・大学院である男性は 28.7%であり、これと比較すると平成 27 年度新入生の父親の学歴は高いほうに偏っている。



図表 2-3 父親の最終学歴

同様に、新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果が図表 2-4 である。平成 26 年度の新入生の母親の最終学歴は、「大学」45.8%、「専門学校・短大」35.0%であった（お茶の水女子大学 2014,p42）。今年度はさらに母親の学歴が高い傾向にあり、「大学」46.4%、「専門学校・短大」37.9%となり、「中学・高校」が 12.9%と割合が低くなっている。『平成 22 年度国勢調査』（総務省統計局 2011）によると、最終学歴が大学・大学院である女性は 20.6%であり、これと比較すると父父親の同様に平成 27 年度新入生の母親の学歴も高いほうに偏っている。



図表 2-4 母親の最終学歴

(3) 大学入学後の経済・生活支援

本節では、新入生の大学入学後の経済・生活支援について、①奨学金・学費免除等の制度の「利用経験の有無」「認知」「利用希望」、②学生寮に関する「認知」「入寮希望」について示す。

① 奨学金・学費免除等の制度の「利用経験の有無」「認知」「利用希望」

図表 3-1 は、本学入学予定のご子女が、これまでに受けたことのある奨学金・学費免除等の制度について、複数回答可として尋ねた結果である。「学生支援機構の奨学金」および「特待生」はそれぞれ全体の 2.1%である。ほかの奨学金についても、いずれも全体の 2%に満たない。

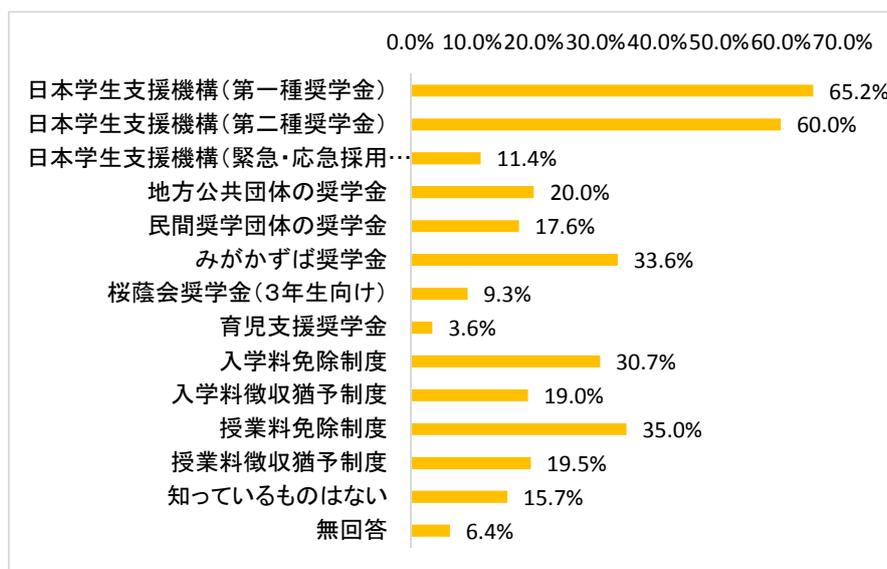
「学費免除」についても、全体の 1.4%にとどまっている。平成 26 年度新入生の保護者でも、ほぼ同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2014,p43）。

図表 3-1 ご子女がこれまでに受けたことのある奨学金・学費免除等の制度

奨学金名称	日本学生支援機構の奨学金	地方公共団体の奨学金	学校独自の奨学金	民間奨学団体の奨学金	その他奨学金	学費免除	特待生
受けたことがある	2.1%	1.4%	0.7%	0.2%	0.7%	1.4%	2.1%

図表 3-2 は、奨学金・学費免除等の制度の認知について、複数回答可として尋ねた結果である。

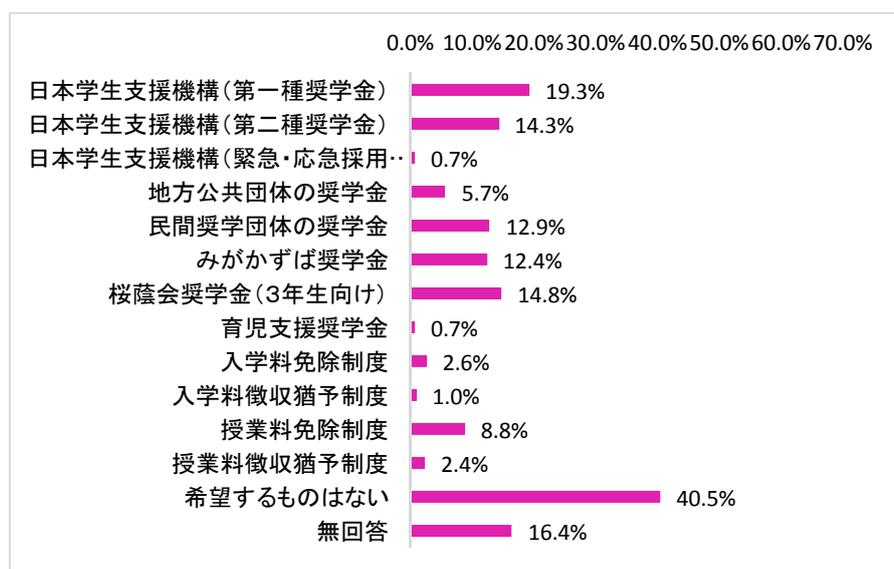
各制度の認知について、奨学金制度に関しては、日本学生支援機構による奨学金の認知率がもっとも高く、第一種は 65.2%、第二種は 60.0%である。本学独自奨学金である「みがかずば奨学金」の認知率は全体の 33.6%であり、平成 26 年度の保護者の認知率 28.6%に比べ、より高い認知率となった。学費免除・猶予等の制度について、免除制度の認知率が全体の 3 割を超えているのに対し、猶予制度の認知率は全体の 2 割弱である。「知っているものはない」は 15.7%である。



図表 3-2 奨学金・学費免除等の制度に対する認知

続いて図表 3-3 は、大学入学後の奨学金・学費免除等の制度の利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。

各制度の希望率について、奨学金制度に関しては、日本学生支援機構による奨学金の希望が、第一種 19.3%、第二種は 14.3%であり、両者に 5 ポイント程度の差が示されている。本学の独自奨学金である「みがかずば奨学金」の希望率は全体の 12.4%であり、日本学生支援機構の第二種奨学金よりやや低い。学費免除等の制度は、平成 27 年度新入生の保護者は 8.8%が希望しており、昨年度の保護者の希望率 10.8%よりも少なく、ここ 3 年間で希望者が初めて 1 割を下回った。(お茶の水女子大学 2014,p45)。「希望するものはない」は 40.5%である。平成 26 年度新入生の保護者では 43.2%が(奨学金などに)「希望するものはない」と回答しており(お茶の水女子大学 2014,p45)、その割合は減少している。

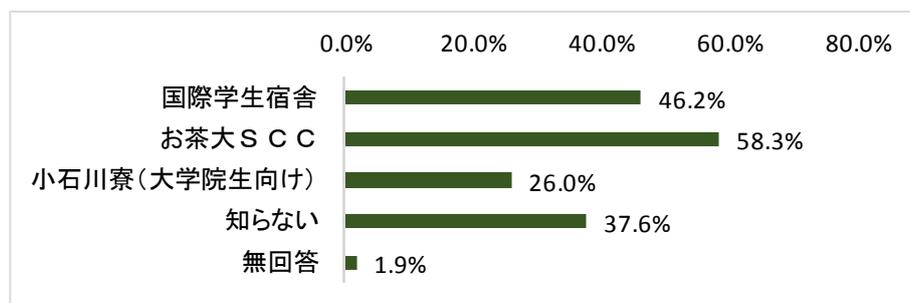


図表 3-3 大学入学後の奨学金・学費免除等の制度の利用希望

② 学生寮に関する「認知」「入寮希望」

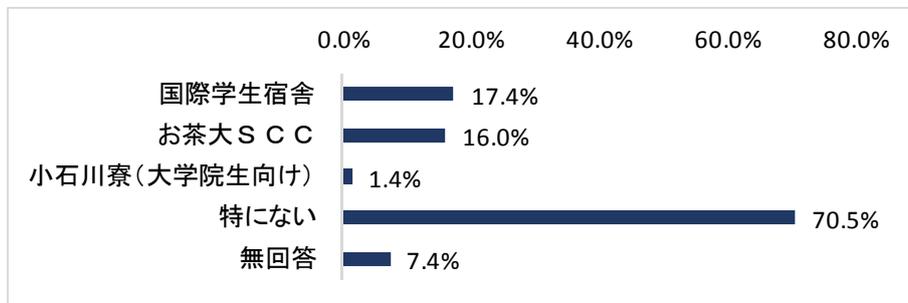
図表 3-4 は、本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ねた結果である。

「お茶大 SCC」が 58.3%と最も高く、「国際学生宿舎」が 46.2%とそれに続いている。「知らない」は全体の 37.6%である。全体として、平成 26 年度新入生の保護者よりも学生寮については低い認知率である(お茶の水女子大学 2014,p46)。



図表 3-4 本学の学生寮に対する認知

図表 3-5 は、本学の学生寮への入寮の希望について、複数回答可として尋ねた結果である。「国際学生宿舎」への入寮を希望する保護者は17.4%、「お茶大 SCC」を希望する保護者は16.0%「特にない」が全体の70.5%であり、平成26年度新入生の保護者とほぼ同様の結果である（お茶の水女子大学2014,p46）。



図表 3-5 本学の学生寮への入寮希望

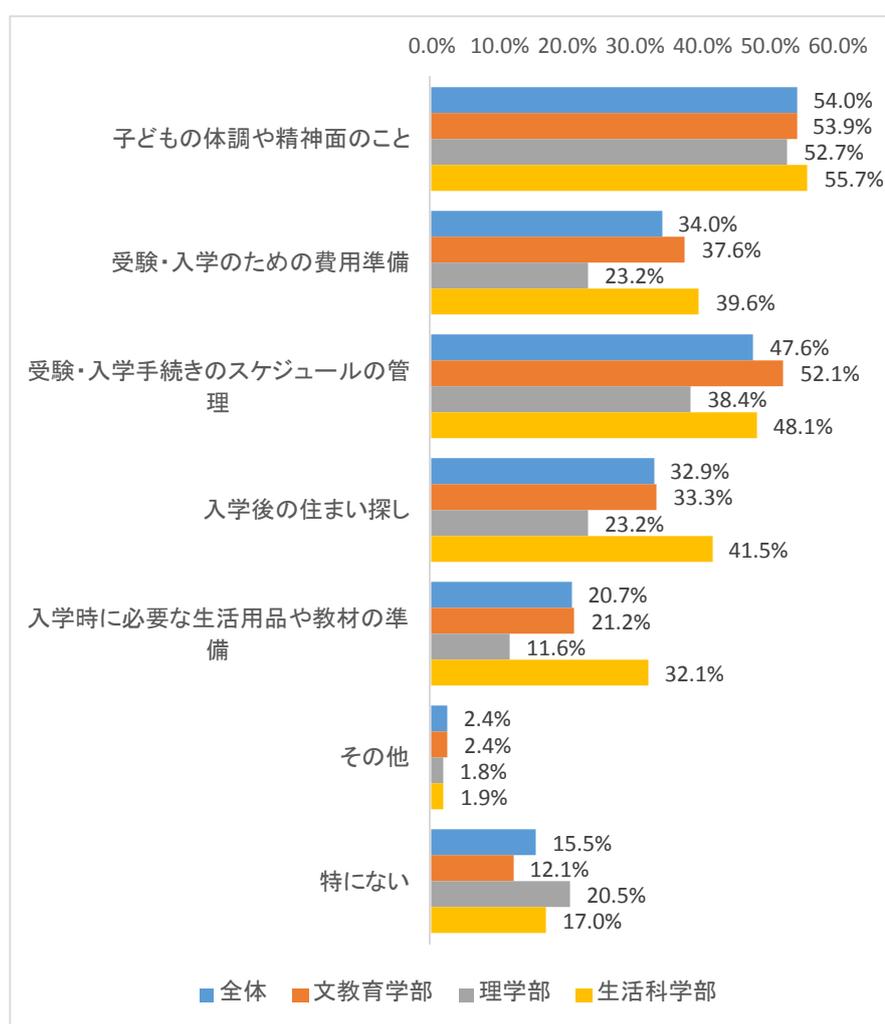
(4) 大学生生活の不安・心配事

本節では保護者から見たご子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

① 受験から入学までに困ったこと

図表 4-1 は、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果である。

困ったことについては、「子どもの体調や精神面のこと」が全体の 54.0%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が全体の 47.6%でそれに続いている。「特にない」は全体の 15.5%であった。これらの結果は、平成 26 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2014 p47）。学部別では、生活科学部は「受験・入学のための費用準備」「入学時に必要な生活用品や教材の準備」について困ったと回答する保護者の割合が他学部比べて高い。

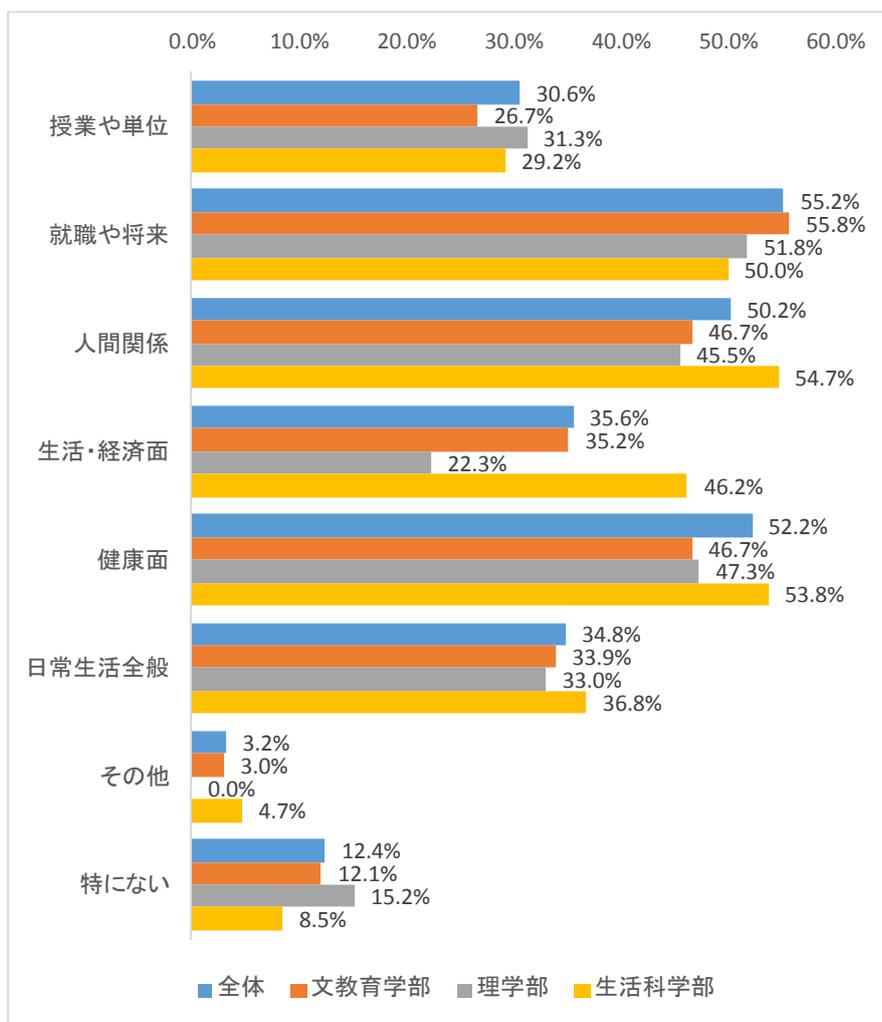


図表 4-1 受験から入学までに困ったこと

② 大学生生活が始まって心配なこと

図表 4-2 は、大学生生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。心配なことについては、「就職や将来」が全体の 55.2%と最も高く、「健康面」52.2%、「人間関係」50.2%、がそれに続く結果となっている。この結果は、平成 26 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2013,p48）。「特にない」は全体の 12.4%であり、平成 25 年度新入生の保護者と大きな差異はみられない（お茶の水女子大学 2013,p37）。

学部別では、理学部において「生活・経済面」「日常生活全般」を心配する保護者の割合が低い。

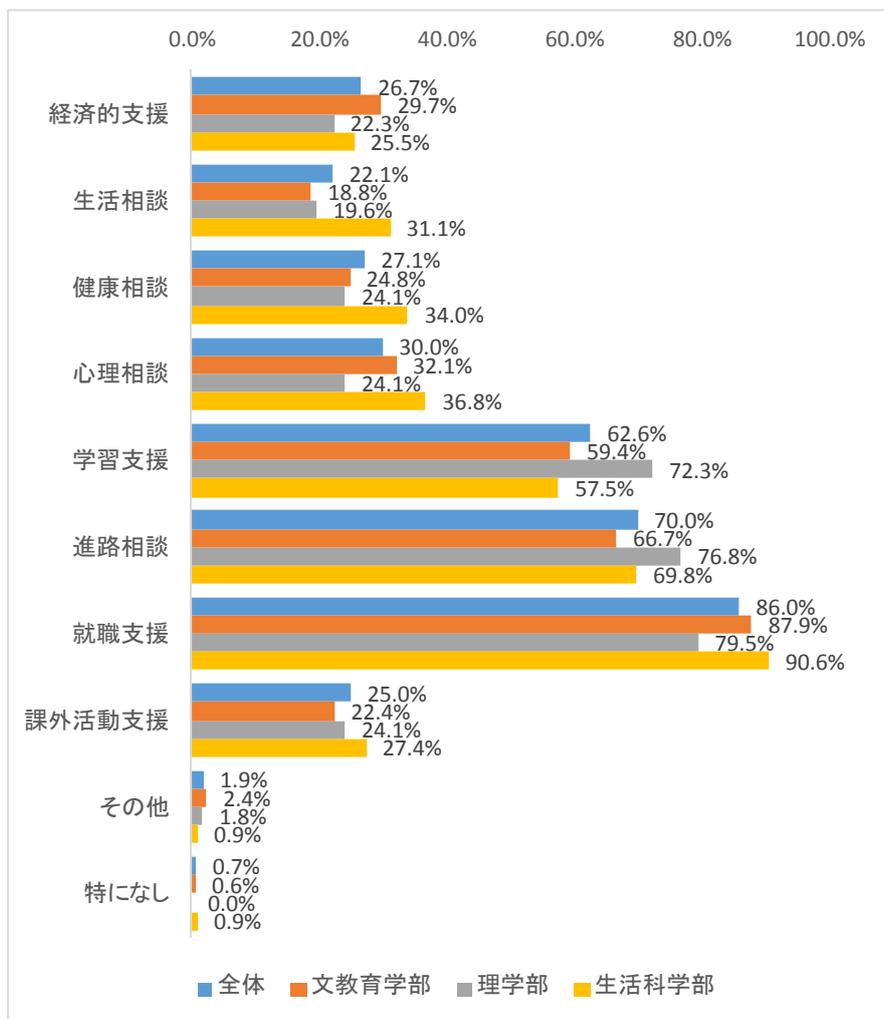


図表 4-2 大学生生活が始まって心配なこと

③ 本学の学生支援活動で期待するもの

図表 4-3 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果である。

「就職支援」が全体の 86.0% で最も高く、文教育学部や生活科学部ではおよそ 9 割に達している。「進路相談」70.0%、「学習支援」62.6% がそれに続くが、平成 26 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2014,p49）。理学部では、「進路相談」76.8% と「学習支援」72.3% が他の学部より高い結果となっている。また生活科学部では、「心理相談」36.8%、「健康相談」34.0% が他の学部より高いことが示された。



図表 4-3 本学の学生支援活動で期待するもの